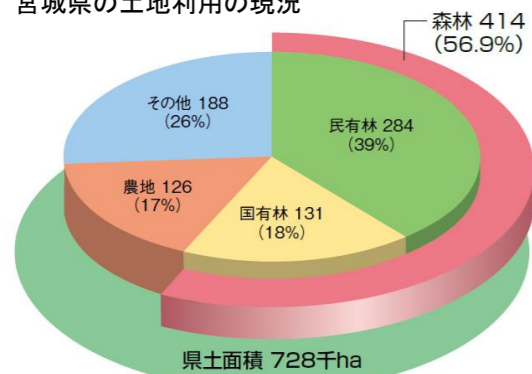


宮城県の森林、林業・木材産業の現状

- 我が県の森林面積は4万4千haで、県土面積の約57%を占める。
- 民有林では、収穫の目安となる41年生（9年齢）以上の人工林の面積が8割を占める。
- 県内の山元立木価格（スギ）は、近年は3,000円/m³程度と低迷している。
- 合板工場、大型製材工場、製紙工場等の立地により、豊富な木材（素材）需要がある（全国第6位）。
- 年間の素材生産量は63万m³（令和3年次）と生産活動は活発（全国第11位）。
- 県内の林業就業者数は、令和2年国勢調査で1,449人と前回平成27年度調査から横ばい。

(1) 宮城県の土地利用の現況



資料：宮城県資料



▲ 県内の森林

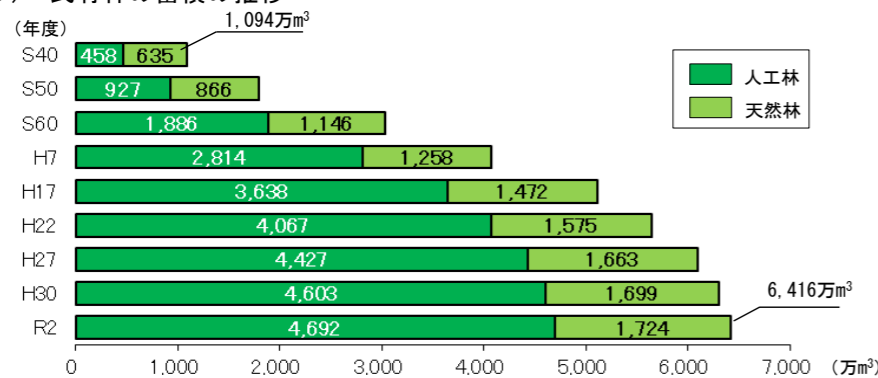
(2) 地域森林計画対象民有林の樹種別面積

区分	総数	人工林							天然林			竹林	無立木	
		スギ	ヒノキ	マツ	カラマツ	その他針葉樹	広葉樹	マツ	その他針葉樹	広葉樹				
面積(ha)	283,057	150,119	107,355	7,533	29,887	3,444	47	1,852	124,238	7,701	94	116,443	1,875	6,826
構成比(%)	100.0	53.0	37.9	2.7	10.6	1.2	0.0	0.7	43.9	2.7	0.0	41.1	0.7	2.4

※地域森林計画対象民有林の対象森林面積であるため、上記円グラフとは一致しない

資料：宮城県資料

(3) 民有林の蓄積の推移



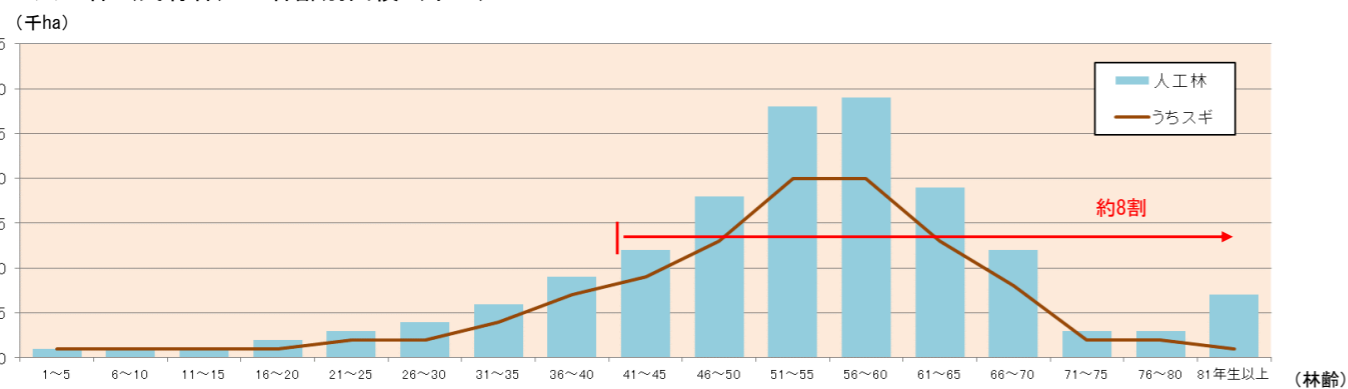
資料：宮城県資料



▲ 利用期を迎えたスギ人工林

森林の蓄積は年々増加し、昭和40年の約6倍となっている

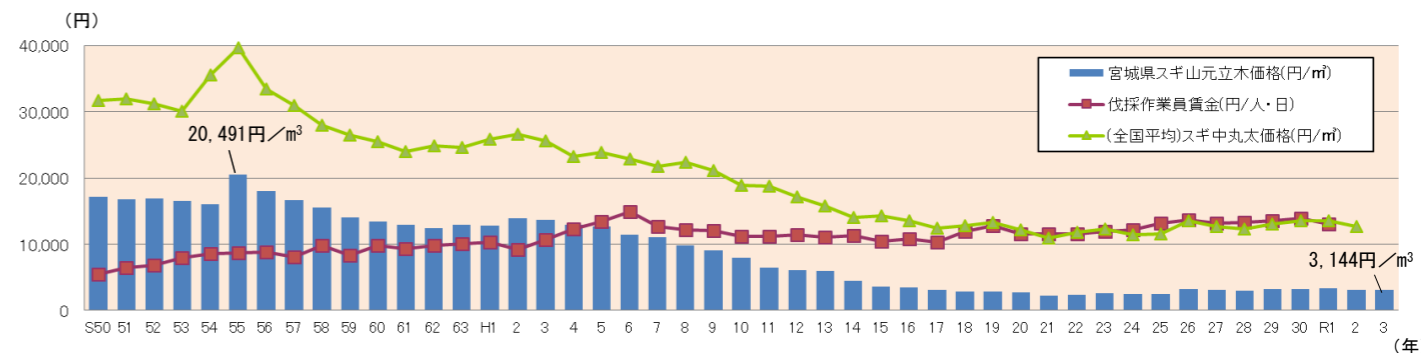
(4) 人工林（民有林）の林齢別面積（千ha）



資料：宮城県資料

戦後植栽された人工林が本格的な収穫の時期を迎えている

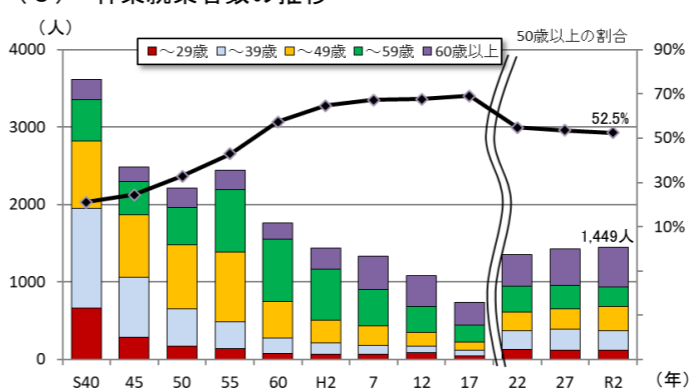
(5) 山元立木価格と伐採作業員賃金の推移



資料：山元立木価格（一財）日本不動産研究所「山林素地及び山元立木価格調」
伐採作業員賃金 林野庁「森林・林業統計要覧」
スギ中丸太価格 林野庁「森林・林業白書」、木材需給報告

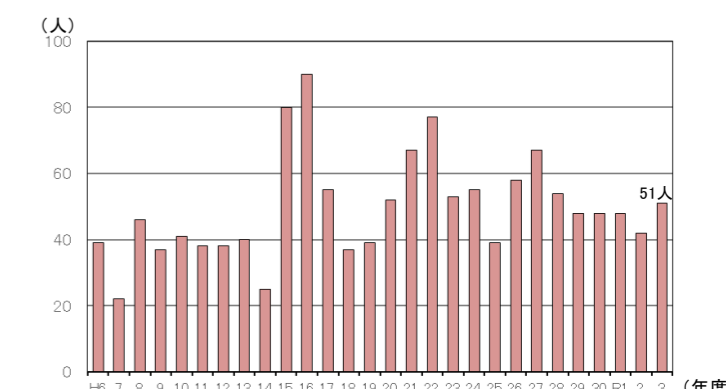
山元立木価格は昭和55年以降長期的に減少し、昭和55年のピークの1/6以下となっている

(6) 林業就業者数の推移

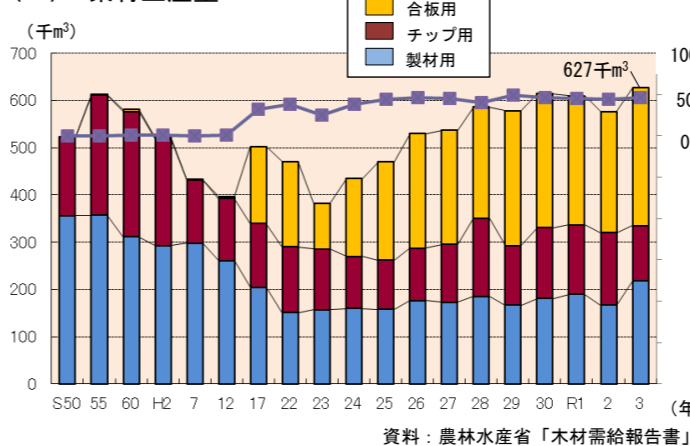


林業就業者は長期的に減少傾向にあり、新規林業就業者は毎年50人前後で推移している

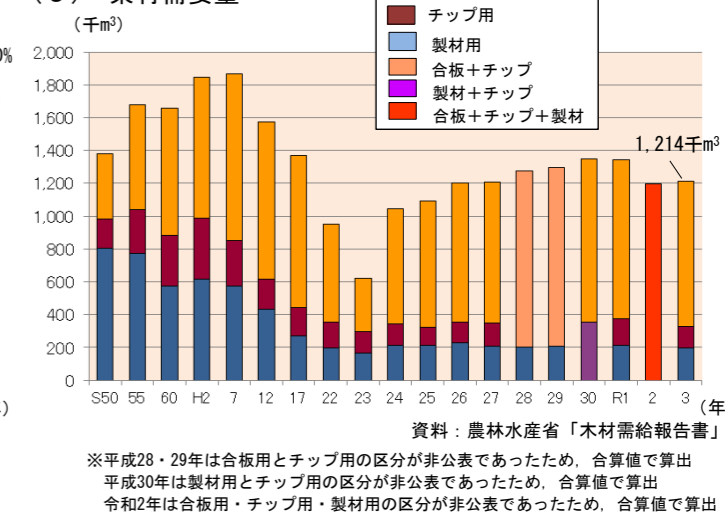
(7) 新規林業就業者数の推移



(8) 素材生産量



(9) 素材需要量



素材生産量は増加傾向にあるが、素材需要量は生産量の2倍となっている

【課題】

- 「木を使い、植え、育てる」循環の仕組みの定着（伐採後の再造林率は3割程度）。
- 森林整備や木材生産の拡大に向け、新規就業者の確保や就労環境の改善、林業事業者の経営基盤の強化など。
- 県産木材の安定的供給体制の構築や新たな利用の推進（素材需要量121万4千m³に対し、生産量は63万m³と半分程度）。